

# 帰る家もない

生まれも育ちも徳山、87歳広瀬さん



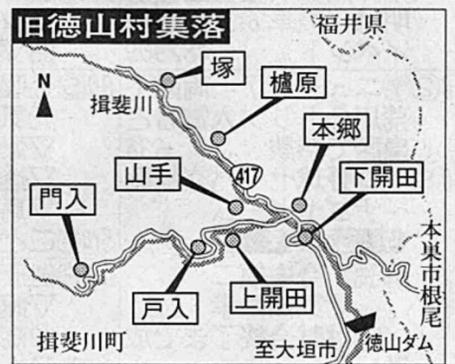
旧徳山村に残っていた家の取り壊しが始まり、古里との別れを悲しむ広瀬ゆきゑさん  
＝11日午前10時40分、揖斐郡揖斐川町

## 水に沈む古里

徳山ダムたん水へ

### 第1部 望郷①

揖斐郡揖斐川町に建設されている徳山ダムが今秋、試験たん水を迎える。建設地となった旧徳山村の廃村から十八年、元村民らが暮らす山間の地が水に沈む。徳山で力を合わせて生きてきた元村民は、移転地でそれぞれの幸せを探りながら暮らす。豊かな自然の中で独自の文化を伝えてきた徳山に今も心を寄せる人らは、ダム湖に姿を変える徳山を見守っている。



**徳山ダム** 揖斐郡揖斐川町の旧徳山村で建設が進む利水、発電、治水の多目的ダム。ロックフィル式で本体の高さは161m、貯水量は国内最大の約6億6000万立方m。今秋試験たん水を始め、08年度から稼働する。周辺では国道417号の付け替え道路などの整備が進められている。

**旧徳山村** ダム建設に伴い1987年に廃村。旧藤橋村(現揖斐川町)に合併された。70年の国勢調査で466世帯、1583人が住んでいたが84年ごろから岐阜市、本巣市、揖斐川町などへ移り住んだ。水資源機構によると、今年3月までに亡くなった世帯主は約170人に上るといふ。

ついに取り壊し「悲しいなあ」

もうこれで徳山にこれなくなる。旧徳山村門入出身の広瀬ゆきゑさん(八七は十一日、門入に残っていた自宅の取り壊しを始めた。広瀬さんは解体作業を見つめ、「家に寿命が来たのだと思う」とにした。でも、やっぱり悲しいなあ。生まれ育った古里は忘れられない。悲しいなあ」と涙を流しながら繰り返した。広瀬さんが本巣市文殊

に移り住んだのは、ダム建設による一般補償基準が妥結してから六年後の一九八九(平成元)年。「本当は移転したくなかったが、年寄り二人では冬は越せない」と断腸の思いで判を押した。移転に際しての契約に基づき水資源機構は何度も家の取り壊しを求めたが、古里への愛着から取り壊すことができなかった。望郷の思いから、移転

#### 徳山ダムの経過

- 1957年12月 揖斐川上流域を電源開発促進法に基づく調査区域に指定
- 71年4月 実施計画調査の開始
- 76年9月 建設省(現国土交通省)が事業実施計画を認可
- 10月 水資源開発公団(現水資源機構)が事業を継承
- 80年3月 付け替え道路工事に着手
- 83年11月 一般補償基準妥結
- 87年4月 徳山村が藤橋村に合併され廃村
- 89年3月 旧徳山村の全466世帯と移転契約完了
- 98年12月 建設省が土地収用法に基づき事業認定
- 2000年5月 本体工事に着手
- 01年3月 ダム上流域の公有地化に関する確認書の締結
- 05年1月 藤橋村、揖斐川町など1町5村が合併し、新揖斐川町が誕生
- 12月 本体工事完了
- 06年秋 試験たん水開始
- 08年春 完成予定

試験たん水が始まっても門入は水没しないが、広瀬さんは完成した徳山ダムを見るべきかどうか、迷っている。「幼い時に祖母から、川は川に山は山にかえるのが世のしきたりと教えられた。ダムはしきたりに従っているだろうか。徳山は遠い将来、どうなっているのだろうか」と古里を思いやる。(瀬見井芳信)